

## 安全データシート【SDS】

作成：平成 19 年 2 月 28 日

改訂：令和 8 年 3 月 23 日

### 1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : ギガコール™ MA  
会社情報  
会社名 : ニッタ株式会社 クリーンエンジニアリング事業部  
住所 : 〒639-1085 奈良県大和郡山市池沢町 1 7 2  
電話番号 : 0743-56-9361  
緊急連絡電話番号 : 0743-56-9361  
FAX 番号 : 0743-56-8682

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

##### 健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性	区分 1
目に対する重篤な損傷・目刺激性	区分 1
急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（経皮）	区分 4
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	区分 3
特定標準的臓器毒性（単回曝露）	区分 1（呼吸器系）

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）	区分 3
-------------	------

\* 上記で記載のないものは分類対象外または分類できない。

#### GHS ラベル要素

##### 絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

危険有害性情報：

飲み込むと有害  
皮膚に接触すると有害  
重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷  
吸入すると有害

粉塵障害防止規則により規定されており、長時間、許容濃度以上にて作業した場合、障害を起こす時がある。

臓器の障害（呼吸器系）

水生成物に有害

注意書き：

**【安全対策】**

全ての安全注意を理解するまで取り扱わないこと。

換気の良い場所でのみ使用すること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。

取り扱い後は手などをよく洗うこと。

必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用すること。

粉塵を吸入しないこと。

発塵をできるだけ抑えて作業環境を許容濃度以下に保つようにすること。

**【応急措置】**

目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚（又は髪）に付着した場合、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

**【保管】**

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

**【廃棄】**

内容物、容器を都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

GHS 分類に該当しない他の有害性：

水に溶けると強酸性になり、皮膚、粘膜を刺激する。

経口摂取すると、のど、胃などが刺激される。

**3.組成及び成分情報**

単一製品・混合物の区別	：	混合物	
化学名及び化学式	：	炭素（活性炭）	りん酸
含有量	：	70%以上	14～16%
化学特性（化学式又は構造式）	：	C	H <sub>3</sub> PO <sub>4</sub>
CAS No.	：	7440-44-0	7664-38-2

官報公示整理番号	: 化審法 (対象外) 安衛法 (SDS 非該当) PRTR 法 (非該当)	化審法 (1-422) 安衛法 (公表化学物質) PRTR 法 (非該当)
----------	--	---

---

4. 応急措置

吸入した場合	: 水でうがいをし、口の中をよく洗浄すること。
皮膚に付着した場合	: 水で洗い流すこと。
目に入った場合	: 目をこすったりせず、直ちに水で充分洗眼すること。
飲み込んだ場合	: 水でうがいをし、口の中をよく洗浄すること。異常のある場合は医師の診断を受けること。

---

5. 火災時の措置

消火剤	: 霧状の水、又は粉末、二酸化炭素、泡等の消火剤。
使ってはならない消火剤	: 棒状注水
消火を行う者の保護	: 消火作業は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣着用。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 出来るだけ粉塵を吸引しないよう保護具を着用する。
環境に対する注意事項	: 環境中に放出してはならない。河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する
封じ込め及び浄化の方法	: 床面などにこぼれた場合は掃き集めたり、吸い取るなど出来るだけ粉塵が飛散しない方法で空容器に回収する。回収容器は充填された容器と同様に扱う。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	: 吸い込んだり、眼に入ったりしないように防塵マスク・保護眼鏡等、適切な保護具を着用する。発塵を出来るだけ抑え作業環境を許容濃度以下に保つように努める。
保管	: 缶内等、密閉場所で行う場合、酸欠作業に準じ換気に留意する。湿気に注意する。直射日光を避ける。消防法に定めるところに従う。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 3.0mg/m <sup>3</sup>
許容濃度	: 吸引性粉塵 0.5mg/m <sup>3</sup> 、総粉塵 2.0mg/m <sup>3</sup> (日本産業衛生学会勧告値 2014 年度版)
呼吸器の保護具	: 防塵マスク

手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 適切な長袖の作業服
衛生対策	: 粉塵が作業場の空気を汚染しないように、局所排気集塵装置を設置する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など	: 固体、破砕状、黒色
臭い	: 無臭
pH	: 水中では ~5
融点・凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点・発火点	: 発火点 80℃以上
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度 (空気=1)	: データなし
比重 (密度)	: 0.50~0.60 g/ml
溶解度	: 水に不溶 (添着薬品は若干溶出する)
オクタノール/水分配係	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
臭いの閾値	: データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル=1)	: データなし
燃焼性 (固体、ガス)	: データなし
粘度	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常取り扱い雰囲気条件においては安定。
危険有害反応可能性	: 空気中での高温加熱やオゾン、液体酸素などの強酸化剤との接触を避ける。急激な酸化による発熱、発火の原因になる。吸着物質の種類や濃度によっては、湿潤熱、吸着熱、反応熱などにより、発熱、発火の原因になる。
避けるべき条件	: 空気中での高温加熱、強酸化剤との接触。
危険有害な分解生成物	: 燃焼により一酸化炭素を発生する。

1 1.有害性情報

炭素（活性炭）として

急性毒性	: RTEC=経口、LD50 (rat) >5000mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: NTP、IARC 共に報告なし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	: データなし
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし
その他	: 高濃度の粉塵濃度条件下で作業した場合、塵肺障害を起すことがあるため、粉塵障害防止規則で規制されている。

りん酸として

急性毒性	: 経口、LD50 (rat) 2000mg/kg : 経皮、LD50 (rab) 3000mg/kg : 吸入、LD50 (rat) 3800mg/m3 (1 hr)
皮膚腐食性・刺激性	: 重篤な皮膚の薬傷
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: 重篤な眼の損傷
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	: 臓器の障害（呼吸器）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

1 2.環境影響情報

生態蓄積性	: データなし
残留性／分解性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
水生環境急性有害性	: 水生生物に有害
水生環境慢性有害性	: データなし
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書 付属書に該当しない

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物、汚染容器及び包装 : 取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、廃棄する際は、関係法令に従って焼却、埋め立て等処分する

---

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当  
国連分類 : 非該当（区分 4.2 の判定試験にて危険な自己発熱を起こさないため、自己発熱性物資 4.2 から除外となる。）

---

## 1 5. 適用法令

消防法 : 非該当  
船舶安全法 : 非該当  
航空法 : 非該当  
労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条）  
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条 2）  
リスクアセスメントを実施すべき危険物質（法第 57 条の 3）（リン酸）  
粉塵障害防止規則、酸素欠乏症防止規則  
化学物質管理促進法（PRTR 法） : 非該当  
じん肺法 : じん肺法施行規則

---

## 1 6. その他の情報

上記の情報は各種の文献等に基づいていますが、必ずしもすべてを網羅しているものではありません。取り扱いには十分注意してください。

この安全データシート（SDS）は JIS Z 7253:2019 に基づいて作成しています。

GHS Classification is according to JIS Z 7252(2019). \*JIS: Japanese Industrial Standards

---

---